

【背景・目的】

SNS 情報の迅速な把握に対し、情報の解釈や判断支援機能が依然として不足している。そこで本研究では、LLM を用いて感情遷移の可視化と変動要因の自動抽出を行う仕組みを構築し、時系列的な動態と要因を提示することで、客観的な報道判断を支援することを目指した。

【結果・考察】

表 1 は、複数の地震事例を分析した感情ヒートマップである。事象発生直後に「心配」が急増する等、地震の規模や地域を問

わず共通する遷移パターンが定量的に確認された。一方で、特定の文脈における特異点も観測され、要因解析によりその背景を抽出できた。本手法は感情の変動要因を可視化することで、客観的な判断根拠を提供し、時期や地域特性に応じた最適な報道戦略の立案に寄与することが示唆された。

表 1. データ分析結果

事例名	🤔 不安			😟 心配		
	初期	中期	後期	初期	中期	後期
能登半島地震	1.9%	4.1%	11.9%	14.4%	16.5%	7.3%
日向灘地震	21.1%	26.6%	29.5%	18.8%	9.1%	14.1%
千葉県北西部地震	4.0%	13.5%	27.0%	33.4%	11.3%	7.1%
青森県東方沖地震	1.6%	13.4%	17.5%	50.8%	18.8%	12.3%
宮城県沖地震	10.2%	18.8%	23.9%	43.2%	15.0%	4.7%